



ホーム>世界>南アジア・インド オリッサ州 報告4

一緒に歩もう!一緒に変わろう!「立ち上がった世界の人々」の21世紀の夢を応援しよう!

プログラム内容

報告1
2011年2月

報告2
2011年12月

報告3
2012年2月

報告4
2012年7月

報告5
2012年後期



教室での学びの発展

オディッサ州の丘陵地帯の村で、子どもたちもお手伝いしてきた簡易教室では、子どもたちの学びが着々と進んできた。35人の子どもたちが、毎日、算数、英語、オリヤ語、道徳を学んでいる。およそ4割の子どもたちが、英語のアルファベット、オリヤの文字や100までの数字を間違いなく理解して書くこともできるようになったという。



女性自助グループの進展

16人の村の女性たちが2つのグループに分かれて自助グループを運営し始めた。グループごとにメンバーから貯金を集め、その資金を元手に竹製のほしき作りや穀類をひいた粉を袋詰めにしたものを作って市場で売り、生活の足しにしました。今まで経験したことのないあらたな取組みに辺境の村の女性たちは活気づいている。



インド社会の変貌がもたらす課題 -人の流動- とナヤクさんの挑戦

ギリシャ危機を発端とした欧州経済危機のため、現在、減速気味であるとはいえ、インド経済は2010年度の経済成長率10%に続き、2011年度も7%近くの成長率を達成した。このため、中程度以上の教育を受けた人々は少し大きな町に行けば、より良い給料の仕事を見つけられる可能性が引き続き、かなり高いといえる。

昨年末から今年前半まで村出身のひとりの若者が、子どもたちの教師として働いていたが、最近、丘陵地帯の村を出て町で働いてみたいとナヤクさんに相談してきた。ナヤクさんが村の子どもたちの未来のためにもうしばらくの間、関わって欲しいと説得を試みたが、より広い世界で自分を試したいという。村で教育を受けた第一世代の彼の決意は、強固だった。



また、近所の村出身で女性自助グループの良い相談役だった教育を受けた若手女性タベシュワニさんは、インド新年度の4月から自治体の職員に採用された。より広い地域の村々を廻る責任を任されたのだ。州や郡の役所も辺境地域にさらに関わるために、地域で暮らし、人々を熟知している中等教育を終えた人々を採用することが活発化している。

カラハンディ郡の辺境地帯にも、インド社会変貌の波が様々な形で押し寄せているのだ。この変貌の中で、村の真の発展を願っているナヤクさんは、最前線の現場で大切な働きを担うもっとも鍵となる人の確保、という新しい挑戦に直面している。

ナヤクさんに与えられている「人と地域のトータルな変革」というビジョンに向かって、インドの激動する社会を的確に見極めてこれからの時代を作り上げていくために、辺境地域での働き人の確保において、新しい対処法を考案できるように祈りの応援が欠かせないことを思う。

スリヤ牧師の決断

カラハンディ郡の町に住み、ナヤクさんから様々な指導を受け、時々、辺境の丘陵地帯の村をナヤクさんと共に訪問していたスリヤ牧師は、先日、この山岳地帯の村に引っ越すことにしたという。魂、健康、教育、そして必要が満たされる経済活動という様々な面で、顧みられてこなかった村の人々がトータルに回復されることを願い、その地で共に暮らすことを決断したのだ。

日本で考えること・祈ること

インド社会の急変貌のなかで、辺境の丘陵地帯を出て、社会の変貌のど真ん中で自分を試す道を選択する若者もいれば、インド社会の華やかな変貌から取り残されていく地域で顧みられない人々に寄り添おうという決断をする人もいる。

1960-70年代の高度経済成長時代の日本でも、当時の多くの若者や人々が様々な決断をしてそれぞれの場所や仕事を選択したに違いない。そして、50年後の転換期の今、私たちはその時代の各々の決断の集大成によって、今の日本社会に到達したことを思わずにはいられない。私たちが到達したこの社会には、多くの輝かしい達成や転換と気がつくことができなかつた喪失や失望の両方が織り交ざっている。

「眠りから目覚めた」といわれるインド社会で、それぞれの人の選択、その選択によって向かった場での貢献が、50年後に「自分や家族、地域そして国全体のために、あの選択をして本当に良かった！」といえる選択をすることができるように祈り、応援するアジアの隣人でありたい。この報告を読みながら、そんなことを願わされている。

祈りの応援依頼

- 7-9月の雨期には橋のない川の川幅が膨らみ、流れが急になるため、村は外の社会と遮断状態になります。村の中で暮らし、時には危険を冒して村の外に出て行く人々の安全が守られ、生活の必要が足りるように。
- ナヤクさんは、村の10代の若者たちに定期的に指導、励まして育てたいと願っています。最善の内容と計画ができますように。

[プログラム内容](#) [報告1](#) [報告2](#) [報告3](#) [報告4](#) [報告5](#)

[Page Top](#)

[Share](#) |

[ホーム](#) [活動内容](#) [FVIの特徴](#) [参加する](#) [寄付・献金](#) [お問い合わせ](#)

Copyright(c) Friends with the voiceless International All Right Reserved

